

ダイヤモンド川柳 三十年八月 題 住む 砂

善人と 思う我が身に 棲む悪魔 山本 昭子

住んでみて 引越しできない 覚悟する 山本 昭子

終わりまで 「月の砂漠を」 聴いてみた 山本 昭子

関取の 大砂嵐 どこへ行った 伊藤 直人

住宅の ローンが終われば ホツとする 伊藤 直人

住んでみりゃ 良いとこ沢山 ありますよ 伊藤 直人

子が巣立つ 住めば都に になると良い 谷口 明世

この砂場 幼子遊び 猫トイレ 谷口 明世

お盆来て 終の住処を 磨きます 谷口 明世

舞鶴も 住めば都よ 半世紀 西沢 秀子

球見らが 記念に砂を 持ち帰り 西沢 秀子

あきもせず ひっくりかえす 砂時計 西沢 秀子

おさるさん 住めば都の おりの中 堀 輝規

土俵ぎわ 砂が頼りの 検査役 堀 輝規

今月の 砂の川柳 汗が出る 堀 輝規

衣食住 足りても何か 不足感 藤原 輝治

子供たら 離れて住んで 家空き家 藤原 輝治

口だけの 言い訳むなし 砂上閣 藤原 輝治